

新たに氷川町に建設型応急住宅13戸（熊本県）
県内の仮設住宅着工、2市2町で172戸・10団地



氷川町に追加整備される県内初の2階建て仮設住宅（軽量鉄骨造）の建設現場

熊本県は、令和8年度熊本地震の被災者のための建設型応急住宅（1団地13戸）を追加整備し8月13日、氷川町で着工した。狭い土地でより多くの住宅数を確保するために県内初の2階建て。今回で県内（熊本市を除く）に整備する同住宅は172戸（2市2町・10団地）となった。

新たに着手した仮設住宅団地は、氷川町宮原334番地の敷地面積約1640m²に軽量鉄骨造2階建て。（一社）プレハブ建築協会が施工し、10月上旬の入居を目指す。

着手済みの市町の状況によると、八代市が2団地35戸（全て木造平屋）、宇城市が3団地50戸（全て木造平屋）、美里町が1団地12戸（木造平屋）、氷川町が今回の追加団地を含めて4団地75戸（全て軽量鉄骨造）となった。構造別では木造97戸、軽量鉄骨造75戸。